

# 大分市滝尾地区防災士協議会被災地視察研修報告

平成30年1月21日(日)

報告者 清松幸生

滝尾校区公民館に14名が集合し、3台の車に分乗し日田市を目指して出発した。午前9時に日田市小野地区の土砂災害現場に到着した。防災士の石井幹夫氏に連絡し、古民家カフェにて出迎えを受け、民家を改装したカフェにて災害当時の模様を伺った。



榔野集落の地勢から発災時の様子まで1時間に亘り聞くことができた。

その中でも、災害時には集落の公民館に避難することを決めていたこと、豪雨の日の1時過ぎに、インターネットで線状降水帯を確認したので、避難準備情報も

でていなかったが、すぐに避難を開始したことで、近くの高齢者を土砂災害から救うことができた。5年前の経験が早期の避難に繋がったそうである。その晩は15名で公民館に宿泊した。

翌日6時過ぎは小康状態で静まり返っていたので災害は終わったとの思いであったが、山の様子は異様な感じを受けた。住民は農道から山の様子を窺っていたが20分後に崩落した。



後に、この時の写真を見たら、山の中腹から水が噴き出していた。この時に気が付けば、3分前に会った消防団の人に、注意を促すことができたであろうと残念でならない。救える命を救えなかったことが悔やまれてしょうがないと語ってくれた。



次いで、九州自動車道にて鳥栖を經由し熊本空港 IC から益城町テクノ団地の災害仮設住宅を訪問し、「みんなの家」にて説明を受けた。



説明は、この仮設に暮らす避難者の見守りサービスを行っている「地域支えあいセンター」を運営する NPO キャンナスの職員である安武氏と、一般社団法人「ACT くまもと」の寮氏より、現状と活動について話をしていた。当初、516戸1,300人の避難者が現在は423戸、1,144人となっている中で、仮設住宅での「心のケア」「コミュニティづくり」「自立支援」「自治組織活動

支援」を開始し、「孤立化」「孤独死」を防ぐ活動を行っている。

具体的には、毎週平日に「おしゃべりカフェ」を開催しているほか、全戸を対象に見守り活動を実施している。また水道のメーターが稼働しているかチェックしたり、イベントの案内を手渡しで配布したりして、その都度、安否・体調確認などを行っている。最近では子供の不登校が増えつつあり、対策が求められている。また、みなし住宅に住む人たちにも情報の提供を行って交流会を開催している。



#### ※参考

熊本地震では50名の犠牲者、関連死197名、二次災害で5名、負傷者2,323名、197,343棟の被害、仮設住宅は3,754戸、みなし仮設13,461戸、公営住宅に859戸が入居。

熊本県の住宅再建支援策は①リバースモーゲージ型住宅融資の金利助成、担保は銀行が有する②住宅再建借入額850万円の利子を県が負担、③引っ越し費用10万円、④民間住宅賃貸20万円などがある。

